

第18回 2018.11.4 SUN 10:15~16:35 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター 日本訪問歯科医学会

プログラム・抄録集

どこまでできるか訪問歯科 そのために



シンポジウム「どこまでできるか訪問歯科 そのために」

特別講演「訪問歯科に期待すること」

教育講演「訪問診療における食支援」「高齢者に多い口腔粘膜疾患とその対応」

ランチョンセミナー「適切な口腔ケア用品の選び方、口腔ケアワンポイントアドバイス」

会員口演・ポスター発表 / スマイルフォトコンテスト

【同時開催】歯科医師対象実習セミナー「訪問診療における緊急時対応について」

歯科衛生士対象実習セミナー「歯科衛生士のための口腔ケアワンポイントアドバイス」

認定医講座「訪問診療でどこまで治療すべきか」

認定訪問歯科衛生士講座「訪問歯科衛生士の基礎知識」

認定訪問歯科コーディネーター講座「介護実習講座」「訪問診療の保険請求」

第18回 日本訪問歯科医学会 プログラム・抄録集

02	ご挨拶
03	会場内案内
05	プログラム
06	医学会・認定講座・実習セミナー参加の注意事項
07	会場アクセス
08	シンポジウム「どこまでできるか訪問歯科 そのために」
12	特別講演「訪問歯科に期待すること」
13	教育講演Ⅰ「訪問診療における食支援」
14	教育講演Ⅱ「高齢者に多い口腔粘膜疾患とその対応」
15	ランチョンセミナー
17	会員口演
22	ポスター発表
26	同時開催 歯科衛生士対象実習セミナー / 歯科医師対象実習セミナー / 認定医講座 / 認定訪問歯科衛生士講座 / 認定訪問歯科コーディネーター講座
31	出展企業一覧

ご挨拶



このたび、2018年11月4日(日)に第18回日本訪問歯科医学会を開催させていただくことになりました。

我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、今後の更なる健康寿命の延伸も期待されます。われわれ医療者には、時代のニーズにあわせた質の高い医療の実現が求められています。

そこで、第18回日本訪問歯科医学会のメインテーマは『どこまでできるか訪問歯科 そのために』とし、訪問歯科の限界と可能性について考える機会になればと考えております。

プログラムとしては、シンポジウムでは「どこまでできるか訪問歯科 そのために」というテーマで、日本歯科大学教授の菊谷武先生を座長に、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士の立場からの講演とディスカッションを行っていただきます。

特別講演として、厚生労働省医政局歯科保健課長の田口円裕先生に「訪問歯科に期待すること」について講演していただきます。

教育講演1として、県立広島大学人間文化学部健康科学科教授の栢下淳先生より「訪問診療における食支援」について講演していただきます。
教育講演2として、大阪歯科大学口腔外科学第二講座主任教授の中嶋正博先生より「高齢者に多い口腔粘膜疾患とその対応」について講演していただきます。

また、同時開催セミナーとして、歯科医師・歯科衛生士を対象とした実習型セミナー・認定医・認定訪問歯科衛生士講座・認定訪問歯科コーディネーター講座を開催します。

さらに、各地域で活動している会員の歯科医院より、会員口演・ポスター発表も実施いたします。充実した内容となっておりますので、訪問歯科診療の臨床で役立つ医学会にしていきたいと思いをします。

今回の日本訪問歯科医学会が、訪問歯科診療に取り組まれる皆様にとって有意義な医学会になりますよう、皆様のご協力とご参加をよろしくお願い申し上げます。

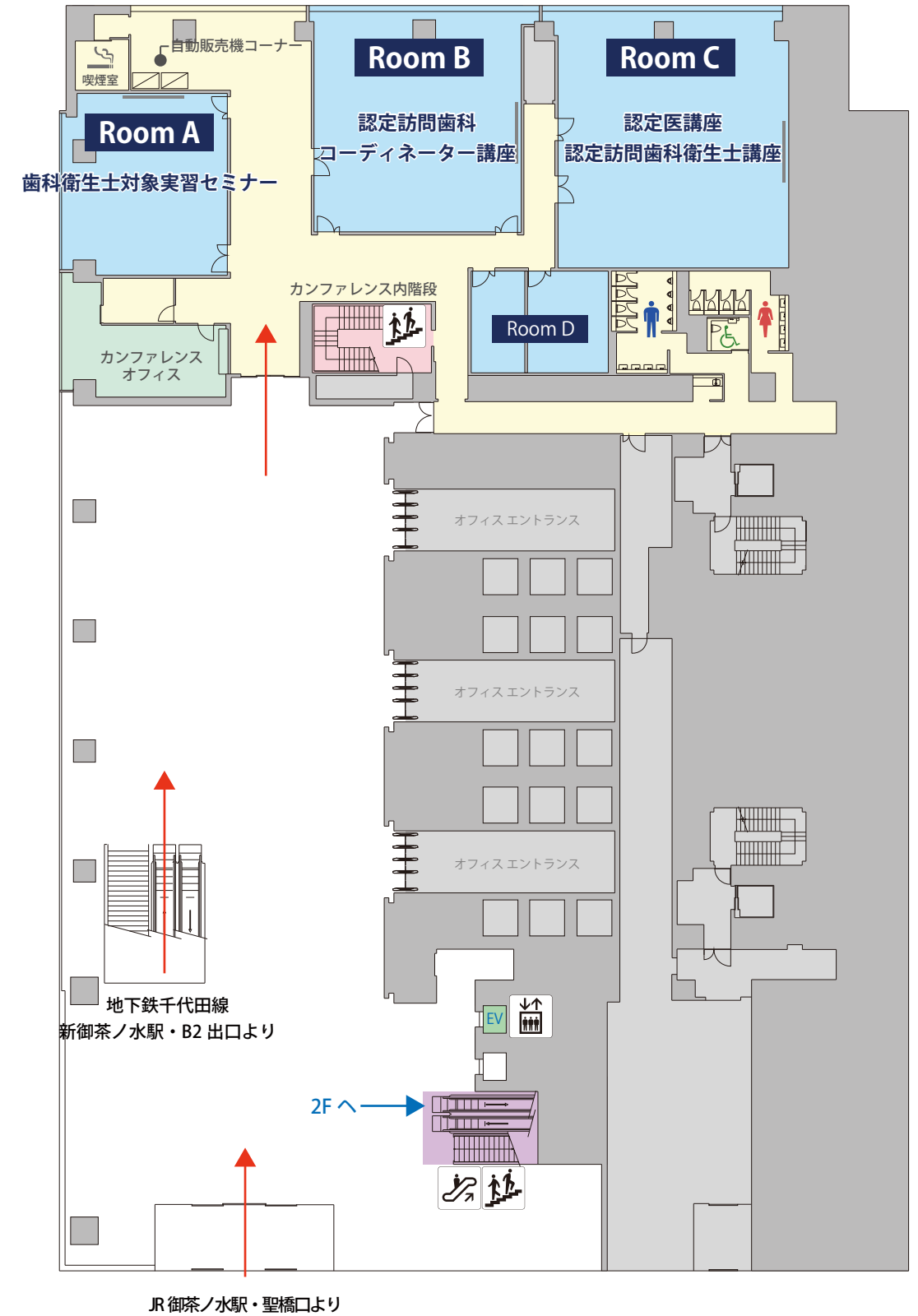
日本訪問歯科医学会 学会長
野坂 洋一郎

会場案内

2F Sola City Hall ・ Terrace Room



1F Room A ・ B ・ C



第18回 日本訪問歯科医学会 プログラム

11/4 (日)	ソラシティホール	Room A	Room B	Room C	Terrace Room	展示 スペース
8:30	8:15～ 総会受付 8:30～8:50 第18回日本訪問歯科協会総会					企業出展 ・
9:00	認定授与式	8:50～ セミナー受付 9:00～10:20 歯科衛生士対象実習セミナー 『歯科衛生士のための 口腔ケアワンポイント アドバイス』	8:50～ 講座受付 9:00～10:00 認定訪問歯科 コーディネーター講座① 『介護実習講座』	8:50～ 講座受付 9:00～10:00 認定医講座 『訪問診療で どこまで治療すべきか』	8:50～ セミナー受付 9:00～10:20 歯科医師対象実習セミナー 『訪問診療における 緊急時対応について』	ポスター 展示 ・ スマイル フォト コンテスト
10:00	9:50～ 医学会受付					
10:30	10:15～10:30 開会式					
11:00	10:30～11:50 シンポジウム 『どこまでできるか訪問歯科 そのために』					
11:30						
12:00			11:50～ 講座受付 12:00～13:00 認定訪問歯科 コーディネーター講座② 『訪問診療の保険請求』	11:50～ 講座受付 12:00～13:00 認定訪問歯科衛生士講座 『訪問歯科衛生士の 基礎知識』		
12:30	12:10～12:50 ランチョンセミナー 『適切な口腔ケア用品の選び方、 口腔ケアワンポイント アドバイス』					
13:00						
13:30	13:05～14:05 特別講演 『訪問歯科に期待すること』				13:05～14:05 会員口演	
14:00						ポスター審査
14:30	14:20～15:20 教育講演Ⅰ 『訪問診療における食支援』					
15:00						
15:30						スマイルフォト 投票×切
16:00	15:30～16:30 教育講演Ⅱ 『高齢者に多い 口腔粘膜疾患と その対応』					
16:30	16:30～16:35 表彰・閉会式					

※ プログラムは変更することもございます。予めご了承ください。

医学会・認定講座・実習セミナー 参加の注意事項

1.

本医学会・認定講座・実習セミナーにおきまして、撮影・録音はご遠慮いただいております。
また、携帯電話もマナーモードにお切り替えのうえ、会場内での通話はご遠慮ください。
2.

ゴミは会場内の所定のゴミ箱にお捨ていただきますようお願いいたします。
3.

館内は禁煙です。所定の喫煙所をご利用ください。
4.

ソラシティホールの後方の座席には、机のご用意がございません。
メモを取られる方は、下敷き・クリップボードをご持参ください。
5.

主催者が記録した医学会・認定講座の参加者の映像・写真・記事記録などは主催者に帰属します。
また、この記録のメディアへの掲載権は主催者が有します。写真・映像掲載などに問題がある場合は
スタッフにお申し出ください。
6.

『第18回日本訪問歯科医学会』の受付は9:50から開始となります。参加票と名札を必ずお持ちください。

■『第19回日本訪問歯科協会総会』に参加される方（正会員のみ）
8:15よりソラシティホールにて受付を開始します。総会開始は、8:30からです。

■正会員以外の方
当日8:50までは、『第19回日本訪問歯科協会総会』がソラシティホールにて開催されております。
正会員以外の方は8:50までは、会場内にご入場できませんので予めご了承ください。

■歯科衛生士対象実習セミナー・コーディネーター講座①・認定医講座にお申込みの方
8:50より1Fにて受付を開始します。各講座の参加票を1F会場受付にお渡しください。
『第18回日本訪問歯科医学会』の参加票は講座終了までお持ちください。
講座終了後、2Fのソラシティホール受付にお渡しください。

■歯科医師対象実習セミナーにお申込みの方
8:50より2Fのテラスルームにて受付を開始します。参加票を2F会場受付にお渡しください。
『第18回日本訪問歯科医学会』の参加票は講座終了までお持ちください。
講座終了後、2Fのソラシティホール受付にお渡しください。
7.

名札は会場内（ロビーを含め）では、必ず見やすい位置にお吊り下げください。
8.

お帰りの際は、アンケート用紙と名札を座席に置いてお帰りください。

シンポジウム 《 ソラシティホール ◆ 10:30ー11:50 》



どこまでできるか訪問歯科 そのために

座長 菊谷 武氏

日本歯科大学 教授
口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長
大学院生命歯学研究科 臨床口腔機能学



お家へ行こう

患者さんは家で暮らしています。住み慣れた家で、家族の思い出と共に暮らしています。お家でのちょっとした処置で患者さんは苦痛から開放され、食べる楽しみを取り戻します。人生の先輩たちのその最終段階に立ち会えることは、歯科医師冥利に尽きるものです。残念ながら時間の長短は別にして、全ての人は身体機能の低下に伴い通院不可能になります。いつ何時何が起ころうと、歯科医療は裏切らない!そんな歯科医療でありたいと思います。

本シンポジウムでは、もう一つの歯科訪問診療である医療的ケアを要し在宅で暮らしている子供たちへの訪問診療、そして、私たちの歯科医療のアウトカムの一つである栄養管理の観点からの問題を取り上げるべくそれぞれの専門家を呼んでディスカッションをしたいと考えています。

プロフィール

1988年 日本歯科大学歯学部卒業
2001年 附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長
2005年 助教授
2010年 教授
2010年 大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授
2012年 東京医科大学兼任教授
2012年 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

2014年～2016年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)
「地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有用性に関する検討」主任研究者

〔主な著書〕

『チェサイドオーラルフレイルの診かた』医歯薬出版
『絵で見てわかる一認知症「食事の困った!」に答えます』女子栄養大学出版
『絵で見てわかる一入れ歯のお悩み解決』女子栄養大学出版
『食べる介護がまるごとわかる本』メディカ出版
『高齢者の口腔機能評価NAVI』医歯薬出版
『基礎から学ぶ口腔ケア』学研
『図解 介護のための口腔ケア』講談社

会場アクセス

御茶ノ水 ソラシティ カンファレンスセンター



お客様用の駐車場はご用意がございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください



● 交通

JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅
聖橋口から 徒歩1分

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅
B2出口【直結】

東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅
出口1から 徒歩4分

都営地下鉄 新宿線「小川町」駅
B3出口から 徒歩6分

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台4-6
御茶ノ水ソラシティ
TEL:03-6206-4855
FAX:03-6206-4854
mail: info-cc@solacity.jp

シンポジスト

高井 理人 氏

医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ



小児在宅での歯科医師 医療的ケア児の在宅生活を支援する 多職種協働

小児医療の発展により新生児死亡率は急速に低下してきましたが、その一方で、人工呼吸器や経管栄養など、日常的に高度な医療を必要とする「医療的ケア児」が増加しています。医療的ケア児は、これまで出生後からの長期入院を余儀なくされていましたが、近年では新生児集中治療室(NICU)から早期に退院し、在宅で生活するようになってきました。それに伴い、小児在宅医療のニーズは医科、歯科ともに高まってきています。しかしながら、小児患者を対象とした在宅医療に取り組む医療機関はまだ少なく、医療的ケア児の在宅生活を支援する十分な医療が提供されていないのが現状です。

平成30年度診療報酬改定により、「小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション管理料」が新設されました。これは、訪問歯科診療の対象となる小児患者の口腔衛生状態の改善、口腔機能の向上及び口腔疾患の重症化予防を目的としており、包括的な口腔管理に対する評価となっています。この点数の新設により、小児在宅歯科医療の必要性が認知され、全国的な取り組みが広がることが期待されます。

小児患者に対する訪問歯科診療では、口腔ケアや口腔リハビリテーションが中心となりますが、人工呼吸器や経管栄養を使用する医療的ケア児は呼吸不全や嚥下障害が重度であるため、訪問歯科診療を行うには特別な配慮が必要です。そのため、主治医との情報共有は必須であり、在宅支援を行う多職種とのチームアプローチが求められます。また、在宅での対応が困難な場合は病院歯科との連携も必要となります。

当院は小児在宅医療を中心に行う医科の在宅支援診療所であり、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、セラピスト(PT・OT・ST)、管理栄養士、介護士、保育士から構成される多職種による在宅支援を行っています。今回は、小児在宅医療における多職種協働チームの一員としての歯科医師の役割についてお話しさせていただきます。在宅医療の対象は多くの場合が高齢者ですが、地域には在宅医療を必要としている子どもたちがいます。本講演が地域での小児在宅歯科医療への取り組みの一助となれば幸いです。

プロフィール

2013年 北海道大学歯学部卒業
北海道大学病院 / JR札幌病院 臨床研修医
2014年 北海道大学大学院歯学研究科入学(小児・障害者歯科学教室)
医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろ勤務
2018年 北海道大学大学院歯学研究科卒業 博士(歯学)

シンポジスト

川崎 恵美 氏

一般社団法人小金井市医師会 在宅医療・介護連携支援室
歯科衛生士 / 主任介護支援専門員



コーディネーターとしての歯科衛生士

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現出来るように平成27年度より「在宅医療介護連携推進事業」が進められています。

今までは、医療・介護でそれぞれを支える保険制度の違いもあり、多職種間の相互の理解や情報の共有が十分にできていないことなど、必ずしも円滑に連携がなされていないという課題がありました。その課題を解決すべく「在宅医療・介護連携推進事業」(ア)～(ク)の取り組みを行う事となりました。

- (ア)地域の医療・介護の資源の把握
- (イ)在宅医療・介護連携の課題と抽出の対応策の検討
- (ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- (エ)医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ)在宅医療・介護関係者に関する相談支援
- (カ)医療・介護関係者の研修
- (キ)地域住民への普及啓発
- (ク)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

プロフィール

1996年 歯科衛生士免許取得
2001年 訪問歯科診療の従事
2007年 介護支援専門員(ケアマネジャー)資格取得。その後居宅介護支援に従事
2015年 病院付属の居宅介護支援事業所にて従事。小金井市の在宅医療介護連携推進会議の居宅代表委員となる
小金井市内での多職種連携研修会や地域包括ケアシステム研究会等に参加
2017年 小金井市医師会在宅医療・介護連携支援室担当。現在に至る

その中で(オ)の取り組みとして「在宅医療・介護連携支援窓口」が設置されました。各専門職の連携や調整・相談・研修の開催などを行っています。今年度中に全ての自治体に設置されますので、連携に困ったときには是非とも活用頂きたいと思います。

医療職と介護職では共通言語も違い、お互いがコミュニケーションに困っているように見えますが、なかなか歩み寄ることが出来ません。ではどのように進めれば、職種の壁を越えてチームとして連携出来るのでしょうか? 1人の患者さん(利用者さん)を支える同じチームとしての情報共有、誰に何をどう伝えるか、治療優位の話になっていないか、など気を付けることがたくさんあるのです。

是非、患者さん(利用者さん)本人が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、チームとしての支援を提供して頂きたいと思います。訪問歯科がどのようにチームの一員となるのか、そのためにはどのような視点が必要なのか、多職種との連携とはどのようなものなのかを知り業務に生かして頂けたら幸いです。

シンポジウム | どこまでできるか訪問歯科 そのために 《ソラシティホール ◆ 10:30—11:50》

シンポジスト

米山 久美子 氏



管理栄養士の栄養指導 —訪問管理栄養士の立場から—

「食べる」ということは、栄養を摂るだけではなく、生活の中でも大きな楽しみの一つである。在宅療養者の多くは慢性疾患があり、低栄養、摂食嚥下障害、認知症などを併発し、在宅における食の問題、栄養管理は複雑で深刻である。また、高齢者だけではなく、若くして摂食嚥下障害となり在宅療養している患者も多くみられる。在宅療養を阻害する問題症状の中には摂食嚥下障害、低栄養、サルコペニア、フレイル、便秘、褥瘡、糖尿病や心臓病などの疾病があり、食生活や栄養と密な関わり合いがある。そのため、地域の専門職と連携して在宅療養を支えていくことの大切さを日々の訪問からも感じている。

私たちが在宅訪問管理栄養士は、在宅療養者の「美味しい」や「食べたい」などの気持ちを大切にしながら、食事や栄養に対するアドバイスやサポートを実施しているが、摂食嚥下の問題により食事を食べることが困難となっているケース

も少なくない。そのようなケースにおいては、在宅療養者、介護者を中心に、歯科医師、歯科衛生士、セラピストなどの専門職と協力、協同しながら食の支援を進めていくことが重要であると考えている。

老年歯科医学会第29回学術大会において、『歯科医師と管理栄養士と一緒に仕事をするために』学会の立場表明があり、サルコペニア対策、フレイル対策が叫ばれる中、健康長寿を達成する方策として、栄養の視点を取り入れた歯科医療が必要であり、連携を図る専門職として管理栄養士が挙げられている。在宅における訪問栄養食事指導、また総合事業などの介護予防事業を実施する際にも、歯科との連携は非常に重要であり、健康寿命の延伸においても今後益々歯科医師と管理栄養士と一緒に仕事をする重要性が高まると考えられる。

今回のシンポジウムを通し、在宅栄養専門管理栄養士の立場から、「歯科医師と管理栄養士と一緒に仕事をするために」どのようなことが望まれるのか考えてみたい。

1997年 相模女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 卒業
2001年 伊藤病院(甲状腺疾患専門病院)管理栄養士
2005年 Embassy CES London Greenwich(Language Year Abroad)留学
2006年 フリーランス(特別介護老人ホーム、外来栄養食事指導、レシピ作成等)管理栄養士
2008年 Meals on Wheels Main Kitchen, Nutrition Professional Australia 実地研修 ワーキングホリデー
2010年 医療法人社団白木会 地域栄養サポート自由が丘 在宅訪問管理栄養士
2016年 杉並区保健福祉部高齢者在宅支援課 訪問指導員 管理栄養士(現在に至る)
2016年 社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 専門職訪問指導員 管理栄養士(現在に至る)
2017年 栄養ケア・ステーション eatcoco 代表(現在に至る)

病院や施設での給食管理を経て、高齢者施設、病院、人間ドックや企業での栄養指導、特定保健指導を経験。その後、フリーランスで活動し、外来栄養指導やウェブ上の献立作成等に携わる。訪問栄養食事指導に興味を持ったことがきっかけとなり、世田谷区の訪問栄養食事指導のモデルケースを担当。その後、「地域栄養サポート自由が丘」「栄養ケア・ステーション eatcoco」を立ち上げ、現在に至る。認定在宅訪問管理栄養士。日本在宅栄養管理学会 東北・関東・甲信越ブロック 東京都副支部長・評議員

プロフィール

特別講演

《ソラシティホール ◆ 13:05—14:05》

訪問歯科に期待すること

田口 円裕 氏

厚生労働省 医政局 歯科保健課長



人口構造の超高齢化といった社会構造の変化に対応するために、国では、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築とあわせ、地域包括ケアシステムを推進することを通じて、地域における医療及び介護を総合的に確保することとしています。一方で、歯科保健医療を取り巻く環境もすさまじい速さで変化しており、国が目指している地域包括ケアシステムの一翼を担う、かかりつけ歯科医の機能や歯科医療機関の役割の明確化が必要となっています。

このような中で、国では、これからの歯科保健医療の目指すべき姿をイメージしつつ、今後の歯科保健医療の需要やあるべき歯科保健医療の提供体制を含んだ「歯科保健医療ビジョン」を、昨年(2022)の12月に策定しました。

このビジョンでは、地域包括ケアシステムにおける歯科診療所の役割として、

『外来診療に加えて病院や在宅等における訪問歯科診療を行うことが求められており、各地域で訪問歯科診療の調整機能を担う機関等との連携を図りつつ、その実施状況に関する情報発信など、訪問歯科診療について周知を図ることが必要である。』
『診療形態や人員等の課題から、訪問歯科診療の提供が困難な歯科診療所は、当該歯科診療所内の外来診療と

訪問歯科診療との役割分担、外来診療時間の調整による訪問歯科診療の実施、訪問歯科診療を実施している他の歯科診療所との連携を図ること等が考えられる。』

と記載されており、今後、地域完結型歯科保健医療の提供体制を構築する上で、訪問歯科の位置づけは極めて重要です。

医療保険の分野では質の高い在宅歯科医療の確保の観点から、診療報酬上の評価が行われており、歯科保健の分野でも人材育成などの取り組みが行われています。今後、訪問歯科診療をさらに推進していくためには、歯科保健と歯科医療の統合された政策の実現が肝要です。

専門的な口腔管理を行うことにより要介護者の肺炎発症率が低下するなど、口腔の健康が全身の健康と深い関係を有することが広く指摘されています。患者・国民からの歯科保健医療に対する期待は大きく高まっており、高齢者、特に自立度の低下した方々への歯科保健医療の需要は増加するものと考えられます。訪問歯科は、地域住民に寄り添い、継続的な口腔機能の管理を通じて、歯科に与えられた役割の一つである「生活を支える歯科保健医療」に貢献できるものと期待しています。

〔プロフィール〕

1989年 長崎大学歯学部卒業
1989年 長崎大学歯学部・文部教官助手(予防歯科学講座)
1994年 厚生省保険局医療課医療指導監査室・医療指導監査官
1995年 山形県環境保健部保健予防課歯科保健専門員
1996年 山形県健康福祉部保健業務課歯科保健専門員(組織改編)
1997年 国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター審査 第3部審査官
1999年 厚生省保険局医療課医療指導監査室・医療指導監査官
2000年 厚生省健康政策局歯科保健課歯科保健医療調整官(併)厚生省老人保健福祉局老人保健課課長補佐
2000年 埼玉県健康福祉部健康づくり支援課副参事
2002年 厚生労働省医政局歯科保健課課長補佐
2006年 厚生労働省保険局医療課課長補佐
2008年 厚生労働省保険局医療課医療指導監査室・特別医療指導監査官
2009年 社会保険診療報酬支払基金歯科専門役
2012年 厚生労働省保険局歯科医療管理官
2016年 厚生労働省医政局歯科保健課長

教育講演Ⅰ 《 ソラシティホール ◆ 14:20—15:20 》



訪問診療における食支援

栢下 淳 氏

県立広島大学 人間文化学部健康科学科 教授



高齢者の増加とともに咀嚼機能や嚥下機能の低下した患者が増加している。咀嚼機能が低下すると軟らかい食事を選択する機会が増える。軟らかい食品とは、水分を多く含む食品であり、単位重量当たりの栄養量は低い。日本人の主食であるごはんと全粥を比較すると、毎食、茶碗1杯(150g)を摂取すると、ごはんの場合、1日当たり750kcal、たんぱく質12g摂取できるが、全粥では330kcal、たんぱく質6gであり、摂取栄養量が大きく異なることがわかる。食事からの栄養摂取量が少ないと、体内の脂肪やたんぱく質(筋肉)を分解し、必要なエネルギーを産生するため、体重減少が起こり、前後して血液に含まれるたんぱく質(アルブミン)が減少する。栄養状態の悪い患者では、数年後の生存率は著しく低いことも報告されている。

最近の研究では、高齢者のたんぱく質代謝は若年者と異なり、同量のたんぱく質を摂取しても、高齢者では若年者ほど筋たんぱく質の合成に利用されないため、積極的にたんぱく質を摂取することが勧められている。つまり栄養状態の変化を早期に発見し、速やかな対応が求められる。栄養状態評価には体重変化や質問紙(MNA-SFなど)の使用が簡便である。高齢者では、肥満者がやせよりも長生きしているデータも多数示されている。

口腔機能では、軟らかいものしか食べないと口腔機能の低下に拍車がかかるとしてオーラルフレイルという概念や、日本老年歯科学会から、以下の7項目の中の3項目が該当すると口腔機能低下症が提案されている。7項目とは、嚙む力、舌の筋力、かみ砕く能力、舌の汚れ、舌や唇の運動機能、飲み込む能力、乾癬である。30kPa以上の舌圧があれば普通の形態の食事(常食)が摂取可能であるが、20kPaを下回ると常食を摂取している人は少ないと報告した。また、自力歩行できる人は常食を摂取していることが多く、車いすで移動するようになると常食の摂取割合が低下し、寝たきりで常食を食べている人はほとんどいない。つまり全身状態の機能低下を早期に発見することやその対応が必要である。全身状態の機能低下を見つけるため、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアといった概念が導入され、ロコモについては対策の簡単な運動も提案されている。

在宅訪問対象患者では、栄養状態の悪い高齢者も多数存在し、その対応について講義予定である。

〔プロフィール〕

1988年 徳島大学医学部栄養学科 卒業
1990年 徳島大学大学院栄養学研究科修士課程 修了
1999年 博士(栄養学)徳島大学より
2005年 県立広島大学 人間文化学部 健康科学科 准教授
2009年 県立広島大学 人間文化学部 健康科学科 教授
同大学 大学院 総合学術研究科 教授 兼任
2016年 賞 International contribution award from
American Speech Language Hearing Association

〔学会評議員・評議員など〕

●日本栄養改善学会：評議員(2003年～)●日本病態栄養学会：評議員(2008年～) / 編集委員(2011年～)●日本摂食嚥下リハビリテーション学会：評議員(2008年～) / 嚥下調整食特別委員会 委員(2009年～) / 社会保険委員(2014年～) / 国際委員会委員(2015年～) / 理事(2015年～)●日本静脈経腸栄養学会：評議員(2010年～) / 臨床研究ワーキング委員 嚥下担当(2013年～) / フェローシップ委員(2014年～) / クリニコYoung Doctors Award選考委員(2016～)●厚生労働省 特別用途食品 えん下困難者用食品基準策定ワーキング委員(2008年)●農林水産省 スマイルケア食選び方検討ワーキング委員(2015年)●消費者庁「特別用途食品(えん下困難者用食品)の規格の分析方法について」の改正に係る調査研究事業 委員長(2015年)●Task Force Member of 'International Standardized Terminology for Dysphagia Diets.(2012年～)

〔主な著書〕

嚥下食ピラミッドによるレシピ125(医歯薬出版 2007)
嚥下食ピラミッドによるレベル別市販食品250(医歯薬出版 2008)
嚥下食ピラミッドによる咀嚼・嚥下困難者レシピ100(医歯薬出版 2009)
嚥下食ピラミッドによるペースト・ムース食レシピ230(医歯薬出版 2013)
リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版 2014)
摂食嚥下障害と嚥下調整食(メディカ出版 2014)
経口摂取アプローチハンドブック(日本医療企画 2015)
学会分類2013に基づく市販食品分類300(医歯薬出版 2015)
回復期リハビリテーション病棟の嚥下調整食レシピ集105(医歯薬 2016)

教育講演Ⅱ 《 ソラシティホール ◆ 15:30—16:30 》



高齢者に多い口腔粘膜疾患とその対応

中嶋 正博 氏

大阪歯科大学 口腔外科学第二講座 主任教授



2025年問題を間近に控えている超高齢社会のわが国において、90歳以上の高齢者が200万人を超えたといわれています。今後さらに高齢者医療はますます重要になってきています。生活習慣病の増加、癌の増加、脳血管障害、そして認知症患者の増加など疾病構造が大きく変化している中で、口腔領域においても、う蝕の減少とともに従来の咬合回復のみの医療以外に、加齢に伴う口腔機能の低下、有病者率の増加など歯科医療を実践していく上で考えなければならない問題が増加しています。

そのような背景から厚労省において提唱された地域包括ケアの充実は政策のみでなく、教育の上においても求められています。口腔の健康は全身の健康につながり、口腔や顎、顔面の機能は、健康で快適な生活を送る為に非常に重要です。しかしながら、高齢者では加齢変化とともに様々な慢性疾患を有する頻度が高くなり、硬組織、歯周疾患のみでなく

口唇、舌、頬粘膜などの軟組織に粘膜疾患が発現します。口腔粘膜疾患は単独に現れるのみでなく、血液疾患、ウイルス感染症、自己免疫疾患などの全身疾患の初発症状として現れたり、それらの部分症として発現したりすることがあります。地域包括ケアを支える訪問歯科において、これらの疾患を早期に発見し、適切に治療することは合併症を有し、予備力のない高齢者にとっては非常に重要であると考えます。

そこで、本講演会では口腔粘膜疾患を診察するうえでの注意点、口腔粘膜の変化である角化、びらん・潰瘍、水疱などの臨床視診におけるポイント、および高齢者に多い代表的疾患である白板症、紅斑症、扁平苔癬、口腔カンジダ症、口腔乾燥症についての診断と対応ならびに口腔癌の鑑別診断等について考えてみたいと思います。



〔プロフィール〕

1979年 大阪歯科大学卒業
1986年 大阪歯科大学助手(口腔外科学第二講座)
1997年 大阪歯科大学講師(口腔外科学第二講座)
2003年 大阪歯科大学助教授(口腔外科学第二講座)
2007年 大阪歯科大学准教授(口腔外科学第二講座)
2013年 大阪歯科大学専任教授(口腔外科学第二講座、障害者歯科)
2016年 大阪歯科大学主任教授(口腔外科学第二講座)
2018年 大阪歯科大学附属病院病院長



適切な口腔ケア用品の選び方、 口腔ケアワンポイントアドバイス

平松 満紀美 氏 NPO法人健口サポート歯るる 副理事長

わが国は世界に類を見ない超高齢社会を迎え、「在宅医療・在宅介護」の時代に突入し、訪問歯科による「誤嚥性肺炎の予防・食支援」などの介入が求められています。なかでも、私たち歯科衛生士は、各所から誤嚥性肺炎の予防を期待されて「口腔ケア」の依頼を受けます。歯科衛生士が口腔ケアで介入した後に熱発が起こるなど有りえないことです。誤嚥性肺炎はなぜ起きるのか？実は、口腔内の不潔から起きる誤嚥性肺炎と、逆流による誤嚥性肺炎があることを理解しておく必要があります。前者の誤嚥性肺炎を予防するために口腔ケアを徹底し、口腔内の清潔を保持する環境を作ることが大切です。

また、私たち歯科衛生士が行う口腔ケアや口腔リハビリを必要としている要介護者の多くの方が、口腔乾燥と闘っています。口腔乾燥を呈する要因として、加齢による唾液分泌低下をはじめ熱発、脱水、薬剤による副作用など様々です。口唇や口腔内が乾燥状態にあるとき、保湿剤を使用することなく口腔にケアを実施すると、口腔ケアに時間を要することも少なくありません。ケアに時間を要することは患者にとって苦痛となる場合があります。口腔ケア用品を適切に選択することはパフォーマンスも充分に発揮できるだけでなく、口腔ケアを受ける側の苦痛や疲労を軽減することに繋がるのです。そのためには、口腔ケア用品を個々の口腔状況に応じたものを選ぶことがポイントとなります。しかしながら、数ある口腔ケア用品の中から、どのようなものを選択すればよいのでしょうか？

本講演では、口腔を預かる専門職である歯科衛生士がおすすめする、口腔ケア用品の選び方および口腔ケア介入の際配慮すべきポイントなどをお話しさせていただきます。

〔プロフィール〕

瀬戸内総合学院 歯科衛生士学科卒。
ア歯科島田診療所、徳島県池田保健所、徳島県西部総合県民局を経て現在フリーランス。訪問口腔ケア担当歯科衛生士、口腔ケアセミナー・健口教室講師などとして活動。

〔所属学会および社会活動など〕

- 公益社団法人 日本歯科衛生士会会員
- 一般社団法人 日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員
- 一般社団法人 日本老年歯科医学会会員
- 歯科衛生士スタディグループ『歯っするメイト』代表
- 口腔ケアサポートグッズ『発するライト』考案
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 生活習慣病予防(特定保健指導)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅療養指導(口腔機能管理)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 摂食嚥下リハビリテーション認定
- 岡山大学 摂食嚥下リハビリテーション上級コース修了
- MDE認定 デンタルエステティシャン
- 一般社団法人TOUCH認定 口腔機能指導士

〔DVD・雑誌記事など〕

- DVD『訪問歯科衛生士単独訪問の実際』〔(一社)日本訪問歯科協会〕
- DVD『DH肺炎を起こさないために』〔(一社)日本訪問歯科協会〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle『DH肺炎ってなあに?』〔2015年6月号〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle『DHは進化する』〔2016年4月号〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle 2017年1月号より連載 ほか多数

〔13:05—13:17〕

口演
1

● 医療法人社団松栄会 ヒロ歯科クリニック（静岡県） 清水 重憲 氏

残存歯を活用した欠損補綴について考える（症例報告）

年々訪問歯科診療の需要が高まっている昨今、その処置において高い割合を占めるのは可撤床義歯を中心とした欠損補綴ではないかと思われる。

しかし患者の症状・体力・認知度・感情の変化等の事情によりせっかく作成・調整した可撤床義歯も使用をあきらめてしまう、または紛失してしまうことも珍しくない。欠損補綴の主たる目的は口腔機能の回復・低下の抑止、栄養摂取、嚥下機能の維持等のQ.O.L確保のため大きな意義を持つ。

しかしながら義歯が使用されず、その目的が果たせないままオーラルフレイルを見守るのみとなることに対し、日常の臨床でいろいろ考えさせられている。義歯の不使用の考えられる主な原因は脳疾患や認知症等により義歯そのものを認識できない。そのため装着しても異物としか認知できない。取り外し等の管理が困難。残存歯のように十分な咬合ができない、等ではないかと思われる。

そこでごく限られたケースではあるが、複数の歯牙を喪失した患者に対し、残存歯を最大限に活用した接着性ブリッジを欠損補綴の主軸に置き、可撤床義歯の割合を最小限にとどめたことで良好な予後が得られた症例をご報告させていただきたいと思う。



医療法人社団松栄会 ヒロ歯科クリニック
清水 重憲 氏

● プロフィール ●

1998年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
2012年 日本外傷歯学会認定医
2015年 同学会評議員
2015年 医)松栄会ヒロ歯科クリニック勤務
現在に至る

口演
2

● 医療法人社団 秀和会 つがやす歯科医院（北海道） 理事長 柊安 秀樹 氏

人生の最終段階における歯科医療 —患者の死と命を支えるとは—

目 的

多くの訪問歯科患者を診ていくと、治らない疾病や重度の認知症・神経変性疾患の方に遭遇することも少なくない。これらは生活者の視点で対峙することが重要となる。当院で経験した亡くなられた患者様を振りかえって、歯科医療者としての反省をしたい。

症 例

「症例」を、死にゆく過程の軌跡として、疾病毎にDr.Rynnのパターンに分け、「処置」についてまとめてみた。がん患者は医療的依存性が高く、慎重な対応が常に求められるが、認知症・老衰などは細く長く支える生活者目線が必要となる。

結果と考察

地域包括ケアシステムの一翼を歯科医療が担う時代に、私達は人が死ぬこと（看取り）を念頭においた在宅医療体制を構築する必要がある。これらは人生の最終段階における辛い状況（本人や家族にとって）を可能な限り改善することを目的し、人間としての尊厳を最期まで大切にすることに他ならない。歯科医療はこれにどう関与できるかを食支援を通じて学ぼうとしている。この視点を忘れることなく、時代や地域の要請に合った訪問歯科診療の質の向上に努めていきたい。



医療法人社団 秀和会 つがやす歯科医院
理事長 柊安 秀樹 氏

● プロフィール ●

〔担当診療科目〕
歯科・矯正歯科・小児歯科・口腔外科

〔履歴・教育歴〕
1951年 帯広生まれ
1975年 東京歯科大学卒業
1975年 補綴学第1講座入局（総義歯学）
1979年 帯広市にて開業
1998年 帯広大谷短期大学 非常勤講師
1998年 帯広高等看護学院 非常勤講師
2009年 昭和大学 口腔衛生学 博士号取得
2009年 東京歯科大学 非常勤講師
2010年 岡山大学 非常勤講師

〔役 職〕
●東京歯科大学、岡山大学 非常勤講師
●昭和大学 口腔衛生学研究生
●日本補綴歯科学会、日本摂食・嚥下リハ学会会員
●日本歯科ボランティア機構北海道支部長
●「食と健康支援ネットワーク」世話人代表

〔研究論文・著書〕
●印象剤の流動性に関する研究（1975年）
●生活支援の為の包括的歯科医療（1997年）
●「おいしく食べる」を支援する歯科医療を目指して（1999年）
●「要介護高齢者における日和見感染菌と全身状況との関連」—学位論文（2008年）

〔13:29—13:41〕

口演
3

● 医療法人社団 和春会 洋歯科クリニック（東京都） 南出 真作 氏

訪問診療における患者さんとの向き合い方

目的・方法

初診時、患者さんやご家族の方から「前に訪問歯科頼んでただけど…」と言われることがあります。なぜそちらをお断りをして新たな歯科をお願いするのかを尋ねると、外来患者と同じように接し、断られている先生が多いように感じ、外来患者と訪問患者、違った接し方が必要なのでは…? と感じるようになり、まだ2年半程度ですが、自分なりに行なってきた訪問での接し方をお話したいと思います。

結 果

「ご逝去」「遠隔地への引っ越しや施設入所」など、こちらがどうしようもない理由を除いて、年々終了患者は減少傾向を辿ってきています。

考 察

今も昔も、外来も訪問も、初診の患者さんを最後まで診療できることを望まない先生はいないと思います。それを可能にするのは我々の診療スタイルであり、人間性であると僕は考えています。訪問診療を行うにあたり、前述の“最後”は、引っ越しや入所を除いては、看取りであり、その時まで、患者さんとはもちろんのこと、患者家族やキーパーソン、ケアマネージャーさんなどその患者を取り巻く全ての人との良好な関係が必要であることは容易に想像され、それを実践していくことが、訪問歯科医師・DH・DAにとって、重要なことと思います。



医療法人社団 和春会 洋歯科クリニック
南出 真作 氏

● プロフィール ●

2015年 朝日大学歯学部歯学科卒業
2015年 徳島大学病院入局
2016年 洋歯科クリニック勤務

〔13:41—13:53〕

口演
4

● こしむねファミリー歯科医院（岡山県） 越宗 紳二郎 氏

訪問診療時に河原式リマウント咬合調整法を用いて義歯調整をおこなった一症例

平成28年の歯科疾患実態調査により8020達成者が50%を超えたと報告され、まさに多歯多死時代となってきている。一方、私の訪問診療の現場では総義歯や多数歯欠損症例を目にする機会は多く、義歯治療の必要性は今後も増えてくるのではないかと感じている。今回、外来診療から訪問診療へ移行した患者に、在宅にて上下全部床義歯の咬合採得、リマウント咬合調整、フードテストを行い比較的良好な結果を得たので報告する。

目 的

噛める義歯を提供する

症 例

79歳、男性、上下無歯顎にて全部床義歯使用中、右片麻痺、失語症あり。

処 置

上下義歯の咬合採得、咬合器リマウント後、口腔外で咬合調整をおこなった。

結果と考察

調整前後でフードテストをおこない動画にて記録。調整後、噛みやすくなっていることを確認。全部床義歯ではフルバランスドオクルージョンを与えることが義歯の維持安定につながる。これにより前歯でも噛めることが出来、口から食べるという人間本来の基本的欲求、患者のQOLに寄与できると考える。



こしむねファミリー歯科医院
越宗 紳二郎 氏

● プロフィール ●

1999年 九州歯科大学卒業
2003年 九州歯科大学大学院(予防歯科学)修了
福岡県・宮崎県の開業医に勤務
2011年 岡山県赤磐市に開業 現在に至る

〔13:53－14:05〕

口演 5

● 医療法人顕樹会 本田歯科クリニック（京都府） 船山 高明 氏

業務標準化にたいする訪問診療部の取り組み（第一報） ～診療業務マニュアルの作成・運用について～

目 的

当法人には訪問診療を実施している3事業所合わせ歯科医師が非常勤を含め20名以上、スタッフは総勢70名以上在籍する。そのため、訪問診療に際し、同じサービス・クオリティを提供するには、法人内の意思統一が不可欠となる。今回、意思統一の一歩として、診療業務マニュアルを作成し、その運用ライフサイクルも標準化する試みを行ったので報告する。

方 法

法人内、訪問診療事業部5職種において、統一フォーマットによる診療業務マニュアルを作成し、クラウド環境に移行して運用するよう手続きを行った。作製・運用管理には『ITIL2011』に準拠した方法を取り入れた。

結果と考察

大規模人員を擁する診療所においては、法人内意思統一を図った上、最終的に各々スタッフの能力・個性を十分発揮させる環境とするのが多様性の観点からも好ましい。その一方で「個人の力量に頼るようでは組織として未成熟」と言われる。これらを両立させるためには、基本的な部分は、法人理念を反映したプロトコルを設定し、それをベースとして各自の能力を発揮する環境とするのが望ましい。診療業務マニュアル作成はそのベースライン設定の一助になる。今後は正しくマニュアルが利用されているか等、運用の検証が必要となっていく。



医療法人顕樹会 本田歯科クリニック
船山 高明 氏

● プロフィール ●

1991年 岡山大学歯学部卒業
医療法人顕樹会 本田歯科クリニック勤務
現在に至る

ポスター発表 《 展示スペース ◆ 3ページ参照 》

● ● ●

ポスター発表 ①

小児総合医療施設における在宅超重症児への 訪問歯科導入についてのアンケート調査

● 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター（東京都）五十川 伸崇 氏

目 的

医療技術の進歩に伴い生命維持のために医療的介助が必要な超重症児が増加しており、在宅移行の促進が図られている。在宅移行後の訪問歯科による口腔衛生管理は重要である。在宅移行を行う小児総合医療施設側での訪問歯科導入への準備状況を把握することを目的とした。

対象と方法

全国小児病院歯科担当者協議会の小児総合医療施設10施設の歯科医師を対象とした。在宅超重症児の訪問歯科診療について、①訪問歯科診療所との連携の有無②訪問歯科が導入されている患者の有無③訪問歯科の導入が必要とされる患者の有無④患者への訪問歯科導入経験の有無、についてアンケートを行い、集計した。

結 果

各設問について有るとした施設は、①5施設②6施設③5施設④4施設。また、全て有るとした施設は3施設だった。

考 察

訪問歯科導入が必要な患者の増加から、小児総合医療施設側に訪問歯科導入体制の拡充が期待される。今後は訪問歯科導入体制構築における課題抽出、対応を検討していきたい。



国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
五十川 伸崇 氏

● プロフィール ●

歯科医師・歯学博士
2000年 東京医科歯科大学歯学部卒業
2004年 東京医科歯科大学大学院小児歯科学分野修了
東京医科歯科大学歯学部付属病院小児歯科
外来医員
2007年 医療法人鉄蕉会亀田総合病院歯科センター
小児歯科
2007年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
小児歯科学分野非常勤講師
2008年 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
非常勤講師
2014年 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児歯科・矯正歯科
全国小児病院歯科担当者協議会幹事代表

ポスター発表 ②

通所介護サービス等利用者の口腔内スクリーニングの必要性
～お口の無料相談会実施からみえた地域の現状～

● 歯科院 南荒子の森（愛知県）佐藤 徳政 氏

目 的

日本訪問歯科協会の協力の下、通所介護事業所で実施した「お口の無料相談会」の結果から、地域の介護サービス利用者の口腔衛生状態の現状と考察を報告する。

方 法

約4年間に実施した相談会は22施設で、延べ428人参加された。この結果をもとに地域の現状と今後について考察した。

結果と考察

参加者の多くは、現在歯科受診する事なく、何らかの口腔トラブルを抱えている事が把握された。また、疼痛や歯の脱落による誤嚥・誤飲の危険性が極めて高く早期治療を必要とする方や口腔衛生状態が著しく不良であり誤嚥性肺炎などの発症が懸念される方を多く認めた。
口腔ケアに対する意識が低く、ケアが不十分である為に治療を必要とする人が多い。ご本人とご家族、また施設職員への口腔ケアの重要性、在宅での口腔ケアの充実、訪問歯科診療の認知度の向上とお口の健康に関する啓蒙、啓発活動がさらに必要であると考えます。地域の方が集まる場所において相談会等を実施する事により、口腔内をスクリーニングし治療はもちろん口腔衛生管理に興味を持って頂く事は大変意義深いことであり、日本訪問歯科協会の協力を頂きながらさらなる活動を行いたい。



歯科院 南荒子の森
佐藤 徳政 氏

● プロフィール ●

2010年 広島大学歯学部歯学科卒業
2010年 名古屋大学医学部附属病院 臨床研修医
2011年 掛川市立総合病院 歯科口腔外科 医員
2013年 歯科院 南荒子の森 勤務
現在に至る

ポスター発表 ③

訪問歯科診療の現場における歯科衛生士の役割

● 医療法人社団大栄会 名古屋桜通デンタルクリニック・知立デンタルクリニック（愛知県）大橋 新史 氏
● 共同発表者 | 医療法人社団トーマツ歯科医院（愛知県）東松 信平 氏
| 医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック（愛知県）原田 知佳 氏

目 的

訪問歯科診療の現場での歯科衛生士の役割を検討する。

方 法

訪問歯科診療の現場で、以下の場面においての歯科衛生士の役割を検討する。

①歯科治療 ②口腔ケア指導 ③摂食嚥下リハビリテーション
④要介護高齢者への特有の対応

結 果 〔歯科衛生士の役割〕

- ①歯科治療：歯科治療の補助を行う。院内業務と基本的に同様である。
②口腔ケア指導：専門的口腔ケアやブラッシング指導を行う。介護施設職員や患者の家族を対象とした口腔ケアセミナーを行う場合もある。
③摂食嚥下リハビリテーション：歯科医師と共同して、摂食嚥下リハビリテーション計画を作成し、実施する。
④要介護高齢者への特有の対応：訪問歯科診療の特徴として、患者が様々な疾病に罹患している場合が多々ある。そのため、歯科衛生士は、「患者を診療場所へ誘導する」、「患者の姿勢を診療しやすい状態にする」、「患者の精神状態を安定させる」等の「介助」を行っている。患者が歯科診療を受け入れるための準備を補助しているのである。

考 察

歯科衛生士は、訪問歯科診療の現場では、より主体的に患者に寄り添った「診療の補助」、「介助」、「指導」を行うことが求められている。

● プロフィール ●



医療法人社団大栄会
名古屋桜通デンタルクリニック・知立デンタルクリニック
大橋 新史 氏

松本歯科大学卒業
愛知学院大学大学院卒業



医療法人社団 トーマツ歯科医院
東松 信平 氏

横浜市立大学卒業
鶴見大学卒業



医療法人社団大栄会 知立デンタルクリニック
原田 知佳 氏
岐阜県立衛生専門学校卒業

ポスター発表 ④

オーラルフレイルへの対応

● 天の川歯科（三重県） 福島 敦司 氏

目 的

本症例では訪問診療によりオーラルフレイルと、摂食、嚥下機能に改善が認められたのみならず、精神状態にも著しい改善が認められたので報告する。

方 法

Kさんは83歳女性で、脳梗塞になり、認知症も発症しており、現在は施設で生活を送っている。初診の時には、全く無表情で微動だにせず口も一センチメートル程度しか開かず、口腔ケアの際に歯ブラシを挿入するのが大変なほどであった。誤嚥性肺炎で入退院を繰り返しており、全身は痩せこけていて、意思の疎通は全く不可能で、本人に意識があるのかもよくわからない状況であった。勿論発語もない。車椅子に座って目は開いているのだが焦点はあっていない。食事は一日に一度、メイグルトを飲むだけで、生命の危険があるほどであった。

早速口腔ケアとマッサージやリハビリテーションを開始した。可動域の拡大をおこない、可能な限りマッサージをする。すると段々と口が開くようになり口腔ケアが

やりやすくなってきた。施設の方によるとKさんが私が行くのを楽しみにしているようだとのこと。言われてみれば、目の焦点もあってきたし、何か微笑んでいるようにも見える。訪問歯科診療で通っているうちに、遂に普通食を摂取するようになってきた。自分でスプーンを使って食べているとのこと。施設の方に話を聞くと「今ではもうひとりで立って歩いて食事を取りに行くんですよ、それで勝手に食べているんですよ」とのこと。確かにあんなにも痩せていて、骸骨のようだったのに、いまでは少しふっくらとしているくらいである。ただまだ発語はなく、コミュニケーションはできなかった。ある時何回か大きな声で「Kさん、何が食べたい？何か食べたいものある？」と聞いてみた。すると笑顔ではっきりと「チョコレート」と言ったのだった。これには施設の方がみんな驚いて手を取りあったのだった。

結果と考察

現在も訪問歯科で口腔ケアと訓練とマッサージ、リハビリテーションを行い、全身状態はもっと改善している。摂食機能療法はオーラルフレイルに有効であることがわかった。



天の川歯科
福島 敦司 氏 ● プロフィール ●

1994年 鹿児島大学歯学部卒
1994年 京都大学医学部大学院入学
1996年 大阪歯科大学歯学部大学院入学
1999年 平成台歯科開業
2009年 天の川歯科開業

同時開催.. 実習セミナー・認定講座

実習セミナー・認定講座への参加は、予めお申込みと別途受講料のお支払いが必要です。

歯科衛生士対象実習セミナー

● Room A / 9:00 — 10:20

歯科衛生士のための口腔ケアワンポイントアドバイス

平松 満紀美 氏 NPO法人健口サポート歯るる 副理事長



第18回日本訪問歯科医学会での歯科衛生士対象実習セミナーは、『歯科衛生士のための体験セミナー』として開催している、通常6時間セミナーから“最重要ポイント”を抜粋した、実践的な実習セミナーの内容となっております。

今回のセミナーでも、介護用ベッドを用いて口腔ケアや食事の際のポジショニングを解説し、参加者のみなさんには実際に患者

さんの立場になって体験して頂きます。その他にも、スポンジブラシの扱い方や、トロミの付け方や、バナナを使って食形態を決める手法などもお伝えいたします。

全てが、患者さんの立場になり、実際に体験して頂くセミナー内容となっております。訪問歯科衛生士として、おさえておきたい必須情報をお伝えさせていただきます。

〔プロフィール〕

瀬戸内総合学院 歯科衛生士学科卒。
ア歯科島田診療所、徳島県池田保健所、徳島県西部総合県民局を経て現在フリーランス。訪問口腔ケア担当歯科衛生士、口腔ケアセミナー・健口教室講師などとして活動。

〔所属学会および社会活動など〕

- 公益社団法人 日本歯科衛生士会会員
- 一般社団法人 日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員
- 一般社団法人 日本老年歯科医学会会員
- 歯科衛生士スタディグループ『歯っするメイト』代表
- 口腔ケアサポートグッズ『発するライト』考案
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 生活習慣病予防(特定保健指導)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅療養指導(口腔機能管理)認定
- 公益社団法人日本歯科衛生士会 摂食嚥下リハビリテーション認定
- 岡山大学 摂食嚥下リハビリテーション上級コース修了
- MDE認定 デンタルエステティシャン
- 一般社団法人TOUCH認定 口腔機能指導士

〔DVD・雑誌記事など〕

- DVD『訪問歯科衛生士単独訪問の実際』〔(一社)日本訪問歯科協会〕
- DVD『DH肺炎を起こさないために』〔(一社)日本訪問歯科協会〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle『DH肺炎ってなあに?』〔2015年6月号〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle『DHは進化する』〔2016年4月号〕
- デンタルダイヤモンド社 DHstyle 2017年1月号より連載 ほか多数



歯科医師対象実習セミナー

● Terrace Room / 9:00 — 10:20

訪問診療における緊急時対応について

深山 治久 氏 東京医科歯科大学医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学分野 教授



訪問診療を希望される患者さんは、歯科医院が近くにない。通院手段がないなどの理由もあるでしょうが、多くはCOPD(慢性閉塞性肺疾患)などの呼吸器疾患、脳梗塞、脳出血などの循環器疾患による運動障害、虚血性心疾患などの心疾患、そして認知症などのためでしょう。訪問診療を依頼するのは、このような大きな疾患を合併している患者さんが大多数といえます。

つまり、訪問診療はリスクの高い患者さんを対象としていることになります。呼吸器疾患のために処置中に気道閉塞・狭窄を起こしたり、循環器疾患のために血圧が

異常に上がったり、認知症のために診療を拒否されたりすることが起こるかもしれません。このような全身状態を前もって把握・管理し、緊急事態の際には適切に処置することが求められます。

具体的には、診療を中断してバイタルサインを測定・評価することから、重篤な場合には胸骨圧迫心マッサージを開始してAEDを使用することにまで及びます。

今回の講演では、リスクの高い患者さんの見分け方と対処法ならびに予防法を実際に起こった症例をお見せしながらお話します。

〔プロフィール〕

1981年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1981年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科入学(歯科麻酔学専攻)
1985年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了(歯科麻酔学専攻)
1985年 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員(歯科麻酔科)
1986年 東京医科歯科大学歯学部附属病院助手(歯科麻酔科)
1989年 米国カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)リサーチフェロー(1991年9月まで)
1998年 東京医科歯科大学歯学部附属病院内講師(歯科麻酔科)
2000年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学 助教授
2004年 鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学講座 教授
2004年 東京医科歯科大学歯学部非常勤講師
2010年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学 教授

〔役職(学会関係)〕

●日本歯科麻酔学会 認定医(1985年)●日本歯科麻酔学会 指導医(1994年)●日本老年歯科医学会 評議員(1999年)●日本老年歯科医学会 編集委員・用語委員(1999年)●日本歯科麻酔学会 評議員(2004年)●日本老年歯科医学会 理事(2004年)●日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医(2005年)●日本障害者歯科学会 認定医(2005年)●日本歯科医学教育学会 編集委員(2005年)●日本口腔科学会 評議員(2006年)●日本歯科医学教育学会 理事(2007年)●日本老年歯科医学会 指導医(2007年)●日本歯科麻酔学会 理事(2007年)●日本歯科医学教育学会 常任理事(2010年)●日本老年歯科医学会 常任理事(2010年)

〔著 書〕

●安心・安全な高齢者診療(デンタルダイヤモンド社 2003)●難治疾患患児の歯科的対応(東京臨床出版 2003)●歯科医師のためのモニタリング(口腔保健協会 2004)●予防補綴のすすめ(ヒョーロン・パブリッシャーズ 2004)●新看護学(医学書院 2008)●一から学ぶ歯科医療安全管理(医歯薬出版 2005)●診療情報提供書の読み方・活かし方(ヒョーロン・パブリッシャーズ 2006)●医療従事者のための口腔外科学(永末書店 2006)●シナリオで学ぶチュートリアル歯科麻酔(医歯薬出版 2007)●歯科診療のための内科(永末書店 2007)●老年歯科医学用語辞典(医歯薬出版 2008)●歯科麻酔の正しい理解(口腔保健協会 2008)●スタンダード全身管理・歯科麻酔学(学研書院 2009)●AQBインプラントの基礎と臨床(AQBインプラントシステム 2009)●高齢者歯科診療ガイドブック(口腔保健協会 2010)●臨床歯科麻酔学(永末書店 2011)●歯科衛生士のための口腔外科学(永末書店 2011)●口腔科学(朝倉書店 2013)●痛みのマネジメントupdate(日本医師会 2014)●トラブルを起こさない局所麻酔(医歯薬出版 2014)●最新歯科衛生士教本(医歯薬出版 2016)●最新口腔外科学 第5版(医歯薬出版 2017)●疾患を有する高齢者の口腔健康管理(口腔保健協会 2017)●歯科麻酔実践ガイド(医歯薬出版 2017)●新看護学14 母子看護(医学書院 2018) ほか多数



認定医講座

● Room C / 9:00 — 10:00

訪問診療でどこまで治療すべきか

米永 一理 氏 JR東京総合病院 総合診療科 医長
東京大学医学部非常勤講師 日本大学歯学部兼任講師



超高齢社会における医療では、高齢者特有の疾患や障害への対応が求められており、高血圧や糖尿病などの生活習慣病に加え、がん、認知症、骨粗鬆症、排尿障害、摂食嚥下障害などへの配慮が必要である。

そして高齢者医療では、①障害との共存、②生活復帰、③納得ゆく死を如何に実現させるかがポイントであり、個別的で多様なニーズに対するアプローチが大切となる。現在内閣府が打ち出している人生100年時代構想では、人づくり革命がすすめられている。われわれ医療者は、健康長寿社会を実現することが一つの任務であり、

訪問診療が必要となった場合でも、何とかするための方策を把握しておくことは、医療連携をする上でも重要となる。

今回、主要疾患に対し、患者の訴えから何を疑い、どう対応をするかを整理し、訪問診療でどこまで治療し、どのように患者・家族を支えることができるか一考したい。その上で、歯科だからできる時代のニーズに合わせた対応例として、摂食嚥下評価の仕方、介護食の作り方、摂食・内服のさせ方などを紹介する。

〔プロフィール〕

鹿児島大学歯学部卒業、東海大学医学部卒業

〔資格等〕

●医師・歯科医師
●医学博士(東京大学)
●AHA—ACLS-EP、AHA—PALS、ISLS—PSLS、JATEC、FCCS
●日本再生医療学会認定医
●日本抗加齢医学会認定専門医
●日本口腔外科学会認定医
●口腔医科学会総合専門医・指導医
●日本歯科放射線学会准認定医
●緩和ケア研修会修了
●嚥下機能評価研修会終了
●TNT研修会終了
●医師臨床研修指導医講習会修了
●歯科医師臨床研修指導歯科医講習会修了 など

〔受賞歴〕

●Waterpik賞 Best of the Best Award(2006年)
●東海大学医学部長賞「超選択的動注法に関する解剖学的研究」(2013年)
●上十三歯科医師会特別功労賞「地域在宅歯科医療連携に関する研究」(2015年)
●青森県自治体病院・診療所協議会顕彰(2015年)
研究テーマ「Effective prevention of postoperative recurrence of granulocyte colony-stimulating factor-producing fallopian tube carcinoma by concurrent chemoradiotherapy」
●青森県自治体病院・診療所協議会顕彰(2017年)
研究テーマ「Diagnosis and evaluation of 100 dysphagia patients using videoendoscopy at a core hospital of a local city in Japan」

認定訪問歯科衛生士講座

● Room C / 12:00 — 13:00

訪問歯科衛生士の基礎知識

和田 ひとみ 氏 口腔ケア支援グループ オーラルサポート代表



現在、歯科衛生士の訪問が点数化され、また法律の改正もあり、歯科衛生士単独で訪問する機会が増えています。介護保険施行から18年を迎え、いま歯科衛生士による訪問の内容が問われていると感じています。器質的口腔ケア、機能的口腔ケア、そして専門的口腔ケアと求められる「口腔ケア」の質が変わってきている中で、歯科衛生士はその専門性を十分に発揮しているのでしょうか？

そもそも歯科衛生士の専門性とは何なのか？歯科衛生士は「口」という器官の専門家であると多職種は考えています。「歯」と「歯肉」のことだけ診ていれば良いのか？決してそうではないと日々の訪問の中で感じています。

歯科衛生士は「全身の中の口」という視点を持っているのか？そして「口腔機能」にどれだけ目を向けているのか？「口」だけではなく、「患者さん」自身を診ているのか？

今回の医学会のテーマでもある「どこまでできるのか訪問歯科 そのために」。私たち歯科衛生士は、これから何を学び、それをどう患者さんへのケアに活かしていくのか？歯科衛生士だからこそできる「専門的口腔ケア」とは、何なのか？全身の影響を受ける「口」という器官に、どう向き合っていくべきなのか？

私自身が日々の訪問で患者さんから学んだこと、そして多職種から学んだことを含め、歯科衛生士に求められていることをお伝えしたいと思います。

〔プロフィール〕

1994年 長野県公衆衛生専門学校伊那校卒業

1999年 長野市川中島町 宮本歯科医院勤務

2008年 宮本歯科医院退職

フリーランスの歯科衛生士として口腔ケア専門に活動を開始

現在、在宅訪問を中心に活動

非常勤として

● 特別養護老人ホーム「やすらぎの園」施設歯科衛生士

● JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 口腔外科所属病棟担当歯科衛生士

● 長野県歯科医師会 在宅連携室 非常勤歯科衛生士

● 日本訪問歯科協会認定歯科衛生士研修講師

● その他、介護施設の口腔ケア研修会、ヘルパー研修会、栄養士研修会、介護福祉士会研修会、介護予防教室など 講師

認定訪問歯科コーディネーター講座 ①

● Room B / 9:00 — 10:00

介護実習講座

佐野 文枝 氏 株式会社ニチイ学館 お茶の水支店 介護職員初任者研修講座講師

日本の認知症高齢者は450万人を超え、2025年には約700万人になると言われています。この状況に対し、介護従事者や医療従事者の認知症への正しい理解が追いついていないというのが実情です。

認知症の知識が不足し、認知症高齢者の真の思いに気付かずに接すると、ご本人の不安を増長してしまうことがあります。この場合ご本人だけでなく、スタッフ側にも大きな苦痛を与えてしまいます。

そのため、日ごろ認知症高齢者とかかわる職種においては、認知症に関する正しい知識を身につけることが急務と言えます。

当講座では、認知症の基礎知識の解説をはじめ、車椅子や介護ベッドに関する実習、さらには認知症の方への対応に関するお困りごとの解決法レクチャーをおこないます。

〔プロフィール〕

株式会社ニチイ学館 介護職員初任者研修講座 講師

株式会社ニチイ学館 ニチイケアセンターしろかね 訪問介護サービス管理者兼サービス提供責任者

● 保有資格 介護福祉士 介護支援専門員

認定訪問歯科コーディネーター講座 ②

● Room B / 12:00 — 13:00

訪問診療の保険請求

藤間 香純 氏 一般社団法人 日本訪問歯科協会 医療事務研究班

訪問診療は外来と比べて、提供する文書の多さや、介護保険の請求が発生など非常に複雑です。また、高点数での個別指導にあたっても安心して訪問診療に取り組むためには、医療事務をしっかり理解する必要があります。

この講座では、訪問歯科診療に必要な医療事務のポイントを解説いたします。

出展企業一覧

会場内案内図(3ページ)の出展ブース番号順になります

出展企業	出展商品	商品概要
1.日本アイ・エス・ケイ株式会社 TEL 029-869-2001 茨城県つくば市寺具1395-1	かれんEX、かれんES、 ケアかれん など	すぐに使えて片付け簡単な「かれん」に コードレスが仲間入り
2.株式会社ヤヨイサンフーズ TEL 03-5400-1532 東京都港区芝大門1-10-11芝大門センタービル6F	やわらか食ブランド「ソフリ」各種	電子レンジで簡単に調理できる在宅向け やわらか食(冷凍)です
3.川本産業株式会社 TEL 06-6943-8961 大阪府大阪市中央区谷町2-6-4	口腔ケア商品	マウスピュア [®] は、保湿・清掃・リハビリを トータルサポート
4.インテグラ株式会社 TEL 03-3527-1164 東京都千代田区神田須田町1丁目26番	ニューロトリート	リハビリ室の方々から期待されている、 節・神経、刺激装置です
5.サンシステム株式会社 TEL 03-3526-5352 東京都千代田区神田鍛冶町3-4 oak神田鍛冶町ビル3F	Sunny-CARE M	訪問歯科診療における本格的な 報告書作成アプリです
6.株式会社クリニコ TEL 03-3793-4101 東京都目黒区目黒4-4-22	やわらか亭、ビタミンサポートゼリー	介護食、栄養補助食品
7.株式会社ヨシダ TEL 03-3845-2618 東京都台東区上野7-6-9	ポータブルユニット、オーラルピース、 ソニックアー、ニトラディン	口腔ケア製品ポータブルユニットを展示致します
8.コアフロント株式会社 TEL 03-5579-8710 東京都新宿区市谷本村町2-11 外濠スカイビル4F	ORAL7(オーラルセブン) ①モイスチャライジンググウスペースト ②マウスウォッシュ③ジェル	健康な唾液の機能を助ける天然酵素配合の 口腔内保湿ケア製品
9.株式会社NBC International Japan TEL 045-353-9809 神奈川県横浜市金沢区六浦2-5-36	Beam on Beam on One	近赤外光と音響振動によるエイジングケアと ストレスケアの決定版
10.ワシエスメディカル株式会社 TEL 03-3815-7682 東京都文京区本郷2-31-8	VE機材・吸引器 その他周辺機器	菅武雄先生のVEセミナー(日本訪問歯科協会主催) にて扱う内視鏡やその周辺機器
11.株式会社エントラスト TEL 022-726-5655 宮城県仙台市青葉区国分町1-8-24	デンタルCMS	歯科医院用ホームページ作成
12.株式会社コムネット TEL 03-3350-0648 東京都新宿区新宿5丁目11-4 姫路ビル2F	コムネットデンタルサポートシステム	リーフレットや治療案内等の内部広告を 患者様の目線でサポート
13.株式会社シケン TEL 0885-32-2000 徳島県小松島市芝生町字西屋敷55-1	歯科技工物、除菌装置	お手入れが簡単で清潔を保てる 入れ歯やその他歯科技工物の展示
14.メディア株式会社 TEL 0120-996-014 東京都文京区3-26-6 NRBG本郷三丁目ビル6F	① Etak Oral Care 義歯・ マウスピース抗菌スプレー ② 電子カルテシステム With	①義歯の臭い・ぬめりを抑制 ②訪問歯科現場で高評価の電子カルテ
15.昭和薬品化工株式会社 TEL 03-3567-9582 東京都中央区京橋2丁目17番11号	“泡”タイプ薬用はみがき 「オラリンス」	口腔内に広がりやすく、 うがいも拭き取りも簡単!!
16.ウエルテック株式会社 TEL 06-6376-5533 大阪府大阪市北区豊崎3-19-3 ピアスタワー	コンクールマウスリンス、 マウスジェル	乾いたお口、口腔ケアをサポート。 お口の潤いを保ちます

出展企業	出展商品	商品概要
17.クロスフィールド株式会社 TEL 03-5625-3306 東京都墨田区江東橋1-3-6	TePe、ガムチャックス、 ラクスエーター	世界各国からの便利でユニークな商品を 展示しています
18.日本歯科薬品株式会社 TEL 083-222-2221 山口県下関市西入江町2-5	ピタッと快適ジェル	口腔乾燥症の方が快適に使える義歯安定剤
19.有限会社 ウエイブレングス TEL 03-5439-4919 東京都港区三田3-7-16 御田八幡ビル5F	ポータブルレーザー「epic」	訪問歯科に最適な充電式小型レーザーです。 デモ貸出もあります
20.ストローマン・ジャパン株式会社 TEL 0120-418-995 東京都港区芝5-36-7 三田ベルジュビル6階	Straumann [®] デンタルインプラントシステム	Straumann [®] デンタルインプラントシステム
21.株式会社ビーブランド・メディコ・デンタル TEL 03-3295-6926 東京都千代田区神田錦町1-14 立花日英ビル5F	サホライド液 歯科用38%	初期う蝕の進行抑制の効果をうたえる 歯科用医薬品です。
22.株式会社アイディエス TEL 03-5840-9877 東京都文京区本郷3-5-4 朝日中山ビル7F	歯科用合金	金銀パラジウム合金、銀合金及び コバルトクロム合金
23.株式会社シエン社 TEL 03-3816-7818 東京都文京区後楽1-1-10	歯学図書、歯に関連した雑貨等	訪問歯科の本や最新の歯学書、 歯がモチーフの雑貨を多数展示中!
24.株式会社丸山医療器械 TEL 03-3845-5508 東京都台東区松が谷4-2-6 ハイコーポ松が谷101	①カーディアックレスキュー ②手のひらサイズ小型モニタAccumiV5000(記録内蔵) ③パルスオキシメーター (ほか小型酸素吸入装置、蘇生バッグ、血圧計	モニタリングは安定安心の第一歩
25.玉川衛材株式会社 TEL 03-3861-2031 東京都千代田区岩本町2-2-16 玉川ビル	口腔ケア用品一式 (ケアハート口腔専科シリーズ、スポンジブラシ、ウェットシート、ジェル等)	口腔内の汚れを ①落とす ②拭き取る ③潤す の3ステップでご提案。
26.株式会社モリタ TEL 06-6380-2973 大阪府吹田市垂水町3-33-18	ポータキューブ、ポートエックスⅢ、 ポジショニングクッション	訪問診療用器材
27.株式会社ヘルシーネットワーク TEL 042-581-1192 東京都日野市万願寺1-34-3	在宅患者様用カタログ「はつらつ」	医療・介護用食品等をご家庭にお届けする 通信販売カタログです。
28.イーエヌ大塚製薬株式会社 TEL 03-6632-3512 東京都新宿区新小川町4-1 KDX飯田橋スクエア2F	リフレケアシリーズ (口腔ケア用ジェル・ミスト・ 口腔清拭シート)	健康なお口を作るための 口腔ケア製品シリーズです。
29.横浜金属商事株式会社 TEL 022-226-7704 宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1	廃棄用ボックス・歯科用金属	歯科に関わるリサイクル金属とサービス
30.デキシコウインジャパン株式会社 TEL 078-304-5311 兵庫県神戸市中央区港島南町5-5-2 KIBC364	デキシコADX4000W、 デキシコDX3000	バッテリー駆動ポータブルX線撮影装置
31.三井住友トラストクラブ株式会社 TEL 03-6770-2777 東京都中央区晴海1-8-10	ダイナースクラブカード (クレジットカード)	ダイナースクラブカード(クレジットカード)のご案内
32.一般社団法人 日本訪問歯科協会 TEL 0120-299-505 東京都千代田区神田西福田町4 ユニゾ神田西福田町ビル8F	訪問歯科診療教材 (DVD・書籍等)	訪問歯科診療に役立つ教材、セミナー等を 提供いたします

〈実 行 委 員〉学 会 長

野坂 洋一郎 岩手医科大学名誉教授

実行委員長

守口 憲三 一般社団法人 日本訪問歯科協会 理事長 守口歯科クリニック 院長

実 行 委 員

二木 由峰 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中国ブロック長 医療法人社団峰良会 理事長

近藤 公一郎 一般社団法人 日本訪問歯科協会 北日本ブロック長 近藤歯科医院 院長

清水 政紀 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関東ブロック長 井澤歯科医院 院長

桐山 立志 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中部ブロック長 医療法人桐華会 桐山歯科医院 理事長

西村 有祐 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関西ブロック長 医療法人祐愛会西村歯科 理事長

樋口 泰史 一般社団法人 日本訪問歯科協会 四国ブロック長 ひぐち歯科医院 院長

青山 修 一般社団法人 日本訪問歯科協会 九州ブロック長 医療法人社団 秀歌会 青山歯科医院 理事長

木川 仁志 一般社団法人 日本訪問歯科協会 監事 キカワ歯科医院 院長

〈運 営〉 一般社団法人 日本訪問歯科協会 事務局



一般社団法人
日本訪問歯科協会

事務局

〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町4 ユニゾ神田西福田町ビル8F

TEL 0120-299-505



第18回 日本訪問歯科医学会

どこまでできるか訪問歯科 するために

©2018  一般社団法人
日本訪問歯科協会